

## 回答書

### (工事名) 菅生中学校グラウンド改修工事

番号	質 問	回 答
1	<p>掘削(ふるい真砂土再利用)の同項目が2つ(560m<sup>3</sup>、142m<sup>3</sup>)あり足すと702m<sup>3</sup>になります。また真砂土舗装の項目内に現地土流用ふるい真砂土があり、設計面積に5,640m<sup>2</sup>規格通りのt=100mmを掛けると564m<sup>3</sup>のふるい真砂土が発生します。</p> <p>1-1. 掘削のふるい真砂土と真砂土舗装のふるい真砂土の土量が合いませんがなぜなのかお答えください。</p> <p>1-2. 真砂土舗装の564m<sup>3</sup>は締固め土量だと思えますが、ふるい真砂土は564m<sup>3</sup>しか設計では発生しません。564m<sup>3</sup>では足りないので変化率を掛けたほぐし土量分のふるい真砂土が必要ではないでしょうか。またその場合、ふるい手間の増工が必要ですが、このことについてどうお考えかお答えください。</p> <p>1-3. 第14号代価表 ふるい工 種目 ふるいプラント運転 で「ふるいプラント」が設計されます。当該グラウンドの入出門は幅4.9m、高さ(防球ネットのワイヤー下端まで)は3.7mです。設計のプラントがトラックやトレーラー等で運搬された場合、有効幅高さを考慮して入場は可能ですか？また、不可能な場合どういう対策を考えているかお答えください。</p>	<p>1-1. 掘削量702m<sup>3</sup>は、真砂土舗装の必要量に対して、締固めの土量変化率を見込んだ数量で計上しています。</p> <p>1-2. 第0007号代価表S100の表層工の中で、ふるい真砂土は締固めの土量変化率を見込んだ数量で計上しています。</p> <p>1-3. ふるいプラントは、トレーラーでの搬入出を考えており、当該グラウンドの出入口の幅、高さを考慮したものとなっています。</p>
2	<p>本工事はグラウンド全体を施工することになっています。篩った真砂土が設計上564m<sup>3</sup>発生しますが図面、設計書内に仮置き場の指定がありません。現状、施工グラウンド内に仮置きすることと推測されます。</p> <p>2-1. 篩の真砂土の仮置き場は現状(設計上)は、グラウンド内の想定か、お答えください。</p> <p>2-2. 篩の真砂土がグラウンド内に仮置きが難しい場合の対処方法をどうお考えかお答えください。</p>	<p>2-1. 仮置き場は、グラウンド内を想定しています。</p> <p>2-2. グラウンド内での処理が困難な場合は、別途協議により対応致します。</p>

番号	質 問	回 答
3	<p>本工事は、片側1車線の車道に面していますが、車道自体が広くありません。工事の大半は設計として大型車両を選択していると思います。その場合、特に搬出時は内輪差等を考慮し、対向車線にはみ出て運転することになります。また塀の死角があり歩行者も見難いです。安全上交通誘導員が必要と思われませんが設計されていません。以上により、交通誘導員が配置されないと第三者災害が起こる可能性が高いと思われませんが交通誘導員を設計していない理由を教えてください。</p>	<p>前面道路が歩道のある道路であるため、交通誘導員については計上しておりませんが、現地精査、関係機関協議の上、増工が必要な場合は、別途協議により対応します。</p>